

(三)例へば、労働組合の刊行する文書に關して云へば、組合の様々の機關新聞、分會の刊行する工場新聞(分會ニュース)様々のパンフレット、リーフレット、並びにビラ、傳單等々が多かれ少かれ、マルクス主義的教育の武器として利用されねばならぬ。

(ホ)又、組合の様々の集會——工場の座談會、研究會、並びに組合の各機關のあらゆる會合——が、教育の場面として利用され得る。

(ヘ)更らにまた、ストライキその他の日常闘争の場面が、プロレタリア教育の最も効果的場面として活用される。

そこでは、團体的訓練が、不撓不屈のプロレタリア魂の養成が、積極的精神の涵養が、行はれてゐると同時に、マルクス主義的イデオロギーの注入が、最も効果的に行はれてゐる。よき指導者によつて指導されるとき、大衆は、ストライキを通じて、最も速かに小ブルジョアの偏見から脱却する。

(イ)労働組合は、それが最も廣汎なる大衆を抱擁してゐるものであるだけに、その教育的任務は極めて重大である

をとらへて、それを如何に理解すべきであるかを宣傳することが非常に必要である。

(ロ)近代的工場の労働者は、社會の出來事に對して決して無關心ではない。對支戦争の問題にしても、ファッショの問題にしても、齋藤内閣の成立にしても、金輸出禁止の問題にしても、平價切下げの問題にしても、オリンピック競技の問題にしても、その他あらゆる問題に對して、多かれ少なかれ關心を持つてゐる。しかし、さうした問題に對する一般大衆の考へ方は、多くは、ブル新聞あたりを通じて宣傳されたブルジョア・イデオロギーを基礎としたものである。で、さうした労働者にマルクス主義的な考へ方をつきこむのが、我々の工場座談會の任務である。

(ニ)だから、工場座談會は、單に分會員だけでなしに、全工場の従業員を集めて開かなければ効果的ではない。戰鬥的工場委員會が確立されれば、その工場委員會の事業の一つとして計畫されるべきであるし、それが出來てゐない場合なら、讀書會の事業としてやつてもいい。とにかく、なるべく多くの大衆を集めることに努力することが肝要だ。無

戰鬥的労働組合こそ、労働者大衆をプロレタリアにまで練え上げるところの唯一の學校である。

D 工場座談會

(イ)労働組合の教育活動として、特別の注意を要する工場座談會並びに、一般研究會に就いて、左に簡單にその方針を述べらる。

(ロ)工場座談會は、先きに組織問題に關する方針の中で述べた通りに、主として、時事問題を中心として、工場大衆を相手に開催するところのものである。時事問題でなくとも、例へば、「労働組合の話」であるとか「戦争と資本主義の話」であるとか、いつたやうな問題を主題として、それを開催することも、無論、有意義であるが、主として當面の政治經濟問題を主題にして、一般大衆の中へ、マルクス主義的な考へ方を注入するのが目的である。ブルジョアジーの側からは、ブル新聞やブル雑誌やラヂオや演說會や活動寫真などを通じて猛烈な宣傳、煽動がなされてゐるのであるから、我々の側からも、時々刻々に生起する問題

論、さうした大衆的座談會を開催するためには、我々の分會が、その開催のために努力し、それをリードせねばならぬことは、言ふまでもないことだ。

(ホ)大工場の場合には座談會へ集つて来るメンバーが多くなることがあるが、さうした場合には職場別に別けて、同じ問題を主題にした座談會を幾回か持つやうにすることが必要だ。非常に多くのメンバーを一堂に集めて講演會式の座談會をやることは、色々の意味からして、避けるべきだ。

(ヘ)右に述べた工場座談會のほかに、工場の大衆が、自分の不平不満に就いて協議することを目的とした工場懇談會(職場懇談會)や職場協議會の開催は、無論隨時に計畫されるべきであるが、一般の工場座談會が、さうした協議會開催の契機になることが随分ある。工場座談會の開催はその点から見ても極めて有意義である。

(ト)工場座談會は、出來れば、月に何回でも開催すべきだが、そんな場合にも、月一回はそれを計畫する必要があるそれが毎月開かれるやうになれば、工場内の大衆は、何か